

□今後の課題 - 淀川部会

今期の淀川部会で扱ったが不十分である事項や扱えなかったが重要な事項の主なものは下記の通りである。いずれの事項も最新の知識に基づき計画立案するとともに試行的な実施を行い、その結果をモニタリングして評価を行った上計画に反映するというフィードバックシステムによる順応的な管理と透明性の確保を前提とした検討課題である。また、便宜上、計画、環境など項目に分けてあるが、相互に非常に関連しており、個別分断的に扱うのではなく、全体的な視野の下に検討することも前提となっている。なお、第 35 回淀川部会 審議資料 1 も参照されたい。

{計画}

1. 淀川本川が先行事例となっている河川レンジャー制度のさらなる充実や発展

{環境}

1. イタセンパラを指標種とするワンド生態系の回復と再生
 - ①城北ワンド群におけるイタセンパラ絶滅危機の原因解明と対策
 - ②ワンドの干し上げによる魚類や貝類などの生息状況の調査、ならびに外来種の駆除やゴミの除去、などの環境改善と環境改善効果の検証
 - ③ワンド内のオオグチバスやウオーターレタスなど外来種の早急な根絶
 - ④淀川大堰による水位操作やフラッシュ操作の継続とその効果の検証
 - ⑤流水域ワンド群の保全と再生
2. 鵜殿や豊里地区だけでなく、淀川流域全体を視野にしたヨシ原の保全・再生
3. 淀川の汽水域（大川、神崎川、新淀川）の保全や再生。とくに干潟の保全・再生
4. 縦断方向の河川形状の修復 桂川などの井堰の撤去や改善など魚類や水生動物の遡上や降下など移動を妨げない構造の検討や魚道の改善および淀川に流入している自治体管轄の中小支川での同様の検討の促進と連携
5. 水質悪化防止のため早期の住民・住民組織・自治体との協働による総負荷量管理の実施に向けての検討
6. 下流河川の河床低下や底質改善のための土砂管理の検討
7. ダムや堰の弾力的な運用による下流河川の攪乱規模の増大とモニタリング結果を踏まえた生物の生育・生息環境の改善
8. 淀川、木津川、宇治川および本川の河床変動の実態把握とその環境への影響に関する調査および対策の検討
9. 淀川大堰から新淀川、大川（旧淀川）および神崎川への維持流量についての検討
10. 湛水域における流水環境の保持並びに攪乱域と攪乱頻度の増大法の検討

{治水}

1. 堤防強化 現在進行しつつある浸透や洗掘に対する堤防強化だけでなく越水にも強い堤防にするための技術開発
2. 水害に強い地域づくり協議会の設置、ハザードマップの作成や配布、避難態勢、水防活動などの恒状的な活動維持とそのための体制作りの検討
3. 天ヶ瀬ダム再開発に伴う流量増大がダム下流におよぼす諸影響の検討

{利水}

1. 淀川下流域における利水者の水需要の精査確認と速やかな公表
2. 水利権の精査確認と計画的な水利調整による水需要管理
3. 事業中のダムから撤退する場合、工業用水からの転用手続きの早期実施に向けての条件整備の検討
4. 公開による学識経験者、住民参加に基づく琵琶湖・淀川水需要管理協議会の設置ならびにその定期的な開催と節水・水需要抑制・水融通など具体策の検討

{利用}

1. 舟運のための水制工設置後の土砂移動など河川の物理的な環境変化の把握と評価
また、船舶航行の影響検討に基づく舟の速度や総量規制、プレジャーボートの規制や、舟運にそなえたルール作りなど舟運のあり方の全般的な検討
2. 高水敷利用は「川でしかできない利用」に限定し、既存のグラウンド・ゴルフ場などは段階的な縮小の検討
3. 淀川大堰閘門設置の環境への悪影響の防止と、新たな魚道の設置など環境改善の検討